

# 介護保険・第二号被保険者に対する 障害福祉サービス適応への取組について

新潟県障害者リハビリテーションセンター

○秋山 明美

西片 寿仁

北上 守俊



## はじめに



新潟県障害者リハビリテーションセンター（以下当センター）は、平成24年度の新体系移行後、平成28年度まで順調に利用者数が増加していたが、平成29年度には、利用者数が減少に転じた。

相談窓口を通して、社会復帰に向けたリハビリテーションのニーズを感じながらも、なかなか利用につながらない現状があり、当センターの広報活動の対象を、介護保険領域に拡大して行った。今回、「介護保険の方の就労を考える」というテーマでセミナーを開催し、多くの方が関心を持たれたので、その内容を紹介する。

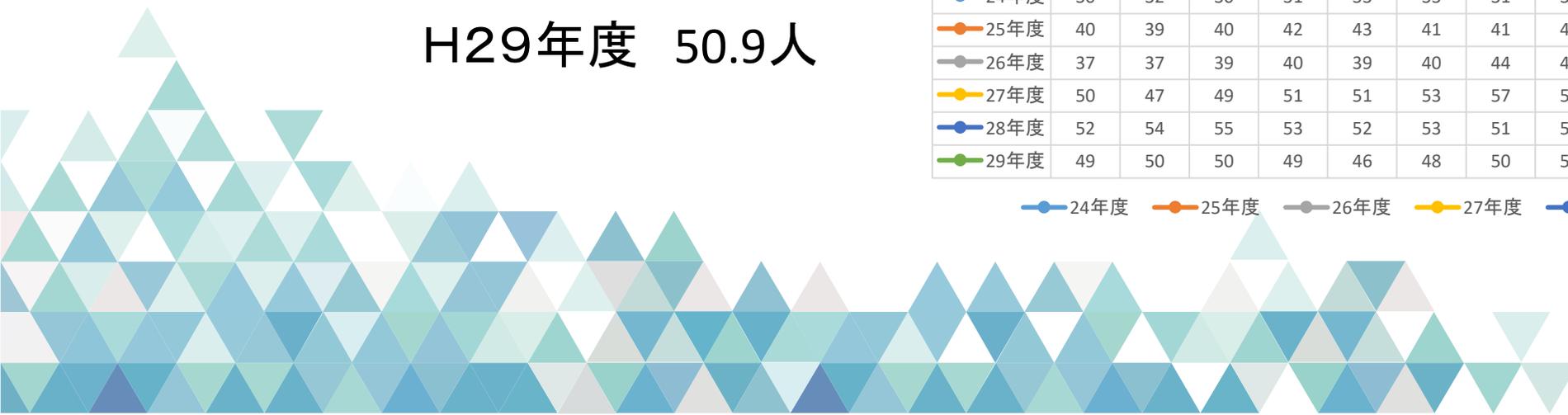
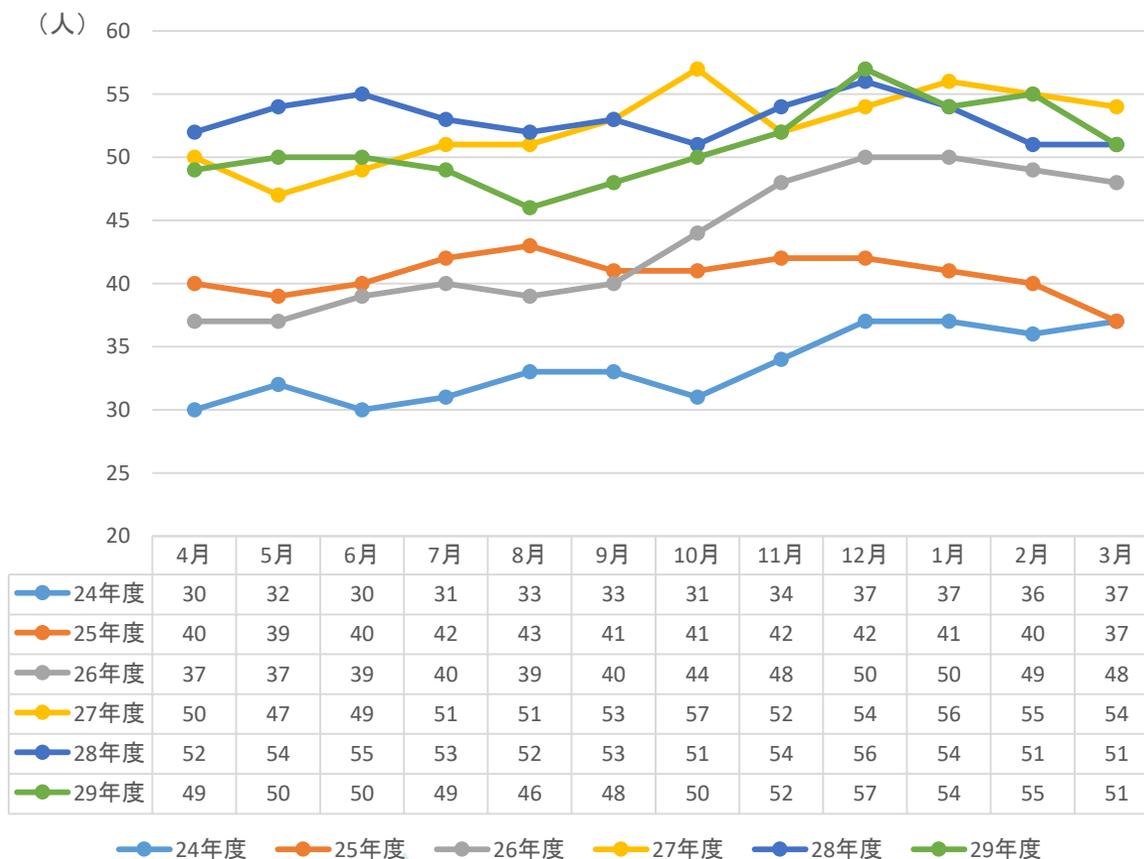
# リハビリテーションセンターの近年の状況



## ・日中活動の月ごとの平均 登録利用者数(定員:40人)

年度平均 H24年度 33.4人  
 H25年度 40.6人  
 H26年度 43.4人  
 H27年度 52.4人  
 H28年度 53.0人  
 H29年度 50.9人

H24~29年度 日中サービス利用登録者数



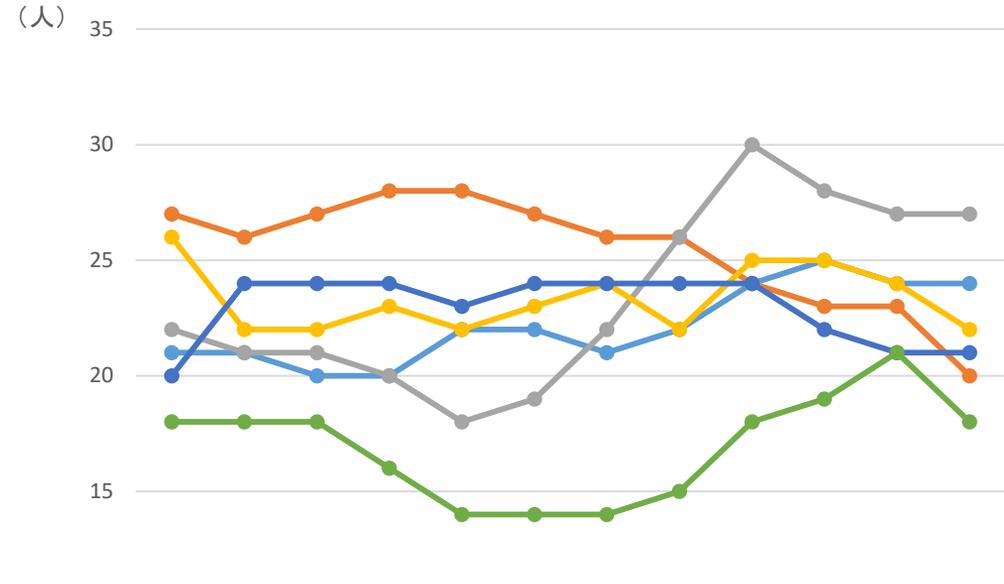
# リハビリテーションセンターの近年の状況



## • 施設入所者数(定員30人)

平均 H24年度 22.2人  
 H25年度 25.4人  
 H26年度 23.4人  
 H27年度 23.3人  
 H28年度 22.9人  
 H29年度 **16.9人**

H24~29年度 施設入所利用者実人数

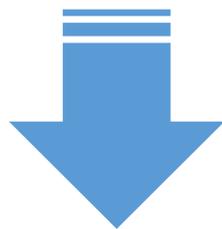


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
● 24年度	21	21	20	20	22	22	21	22	24	25	24	24
● 25年度	27	26	27	28	28	27	26	26	24	23	23	20
● 26年度	22	21	21	20	18	19	22	26	30	28	27	27
● 27年度	26	22	22	23	22	23	24	22	25	25	24	22
● 28年度	20	24	24	24	23	24	24	24	24	22	21	21
● 29年度	18	18	18	16	14	14	14	15	18	19	21	18

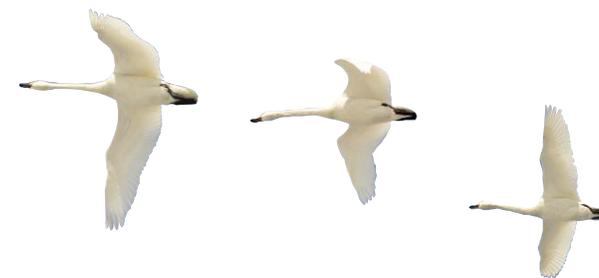
# 利用者拡大に向けた取組



- ・関係機関への訪問活動:介護保険領域の事業所も訪問
- ・各種研修会等での事業説明
- ・定期情報「リハセン便り」(FAXレター)の発信頻度を増加  
(1回/3ヵ月⇒1回/1ヶ月)
- ・通所利用者の利用曜日の追加を打診する
- ・セミナー(新潟高次脳機能障害支援セミナー)や見学説明会  
の開催



# 利用者拡大に向けた取組



広報活動を行った結果・・・



- ・介護保険の第二号被保険者の方からも、就労を目指したいというニーズを把握
- ・介護支援専門員に障害福祉サービスが周知されていないという現状がある

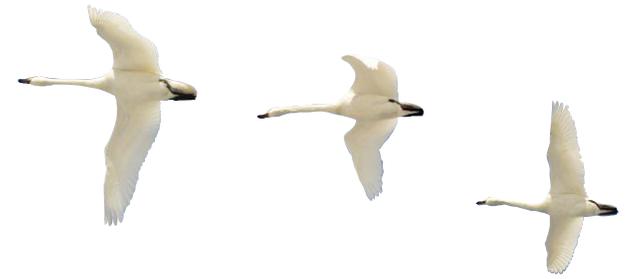


『第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー』を企画



# 第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー

---



テーマ:「介護保険対象の方の就労を考える」

日時:平成30年6月27日 13:30~15:30

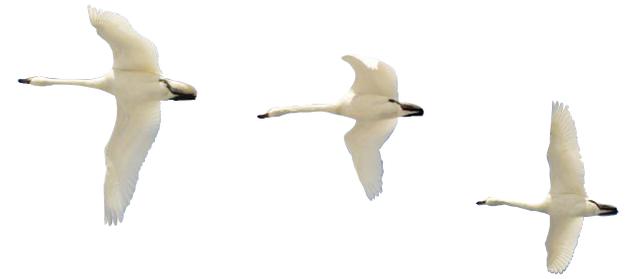
対象:行政、病院、障害福祉サービス関係機関、  
介護保険サービス関係機関

定員:40名

周知方法:メール、FAX、郵送⇒700箇所<sup>の</sup>事業所に周知  
他、ホームページにて案内



# 第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー



## 参加状況

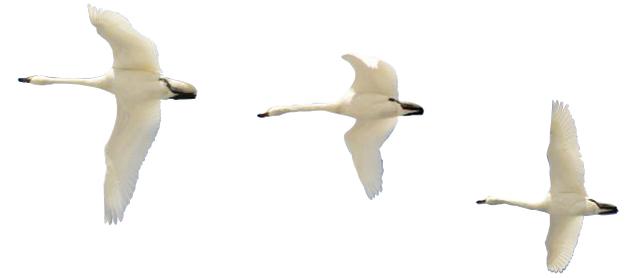
- ・参加者58名(2名キャンセル)

※申し込みが定員を大幅に上回ったため、定員を60名に変更

- ・参加者の職種

- |          |     |              |    |
|----------|-----|--------------|----|
| ・介護支援専門員 | 32名 | ・作業療法士       | 9名 |
| ・言語聴覚士   | 5名  | ・医療ソーシャルワーカー | 5名 |
| ・理学療法士   | 2名  | ・生活支援員       | 2名 |
| ・看護師     | 1名  | ・精神保健福祉士     | 1名 |
| ・社会福祉士   | 1名  |              |    |

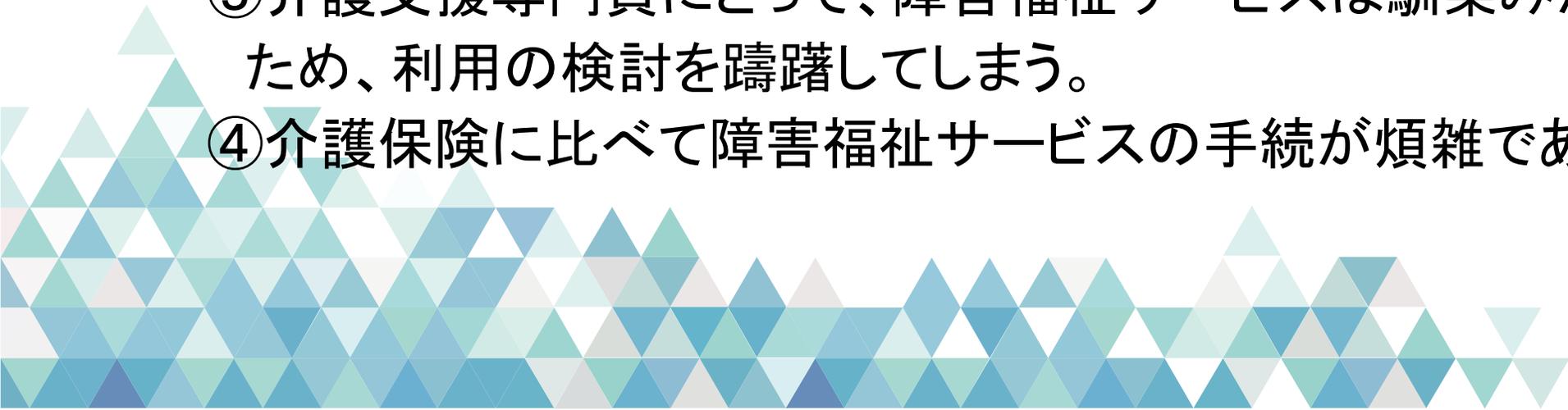
# 第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー



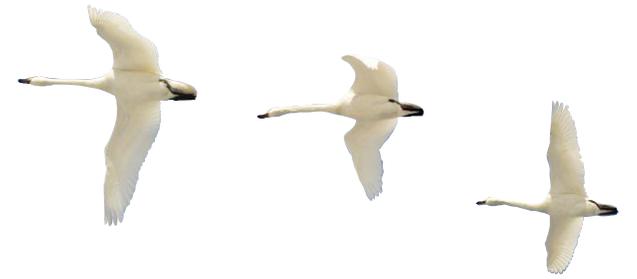
## 【講演1】 当センター相談窓口担当

### ・介護保険第二号被保険者の相談を受け見えてきたこと

- ①第二号被保険者の方は、「なんとかしてまだ働きたい！」と  
思っている方が多い。
- ②介護保険にも同じ名称のサービスがあり、介護保険優先原則  
で半自動的に介護保険サービスにつながるケースが多い。
- ③介護支援専門員にとって、障害福祉サービスは馴染みがない  
ため、利用の検討を躊躇してしまう。
- ④介護保険に比べて障害福祉サービスの手続が煩雑である。

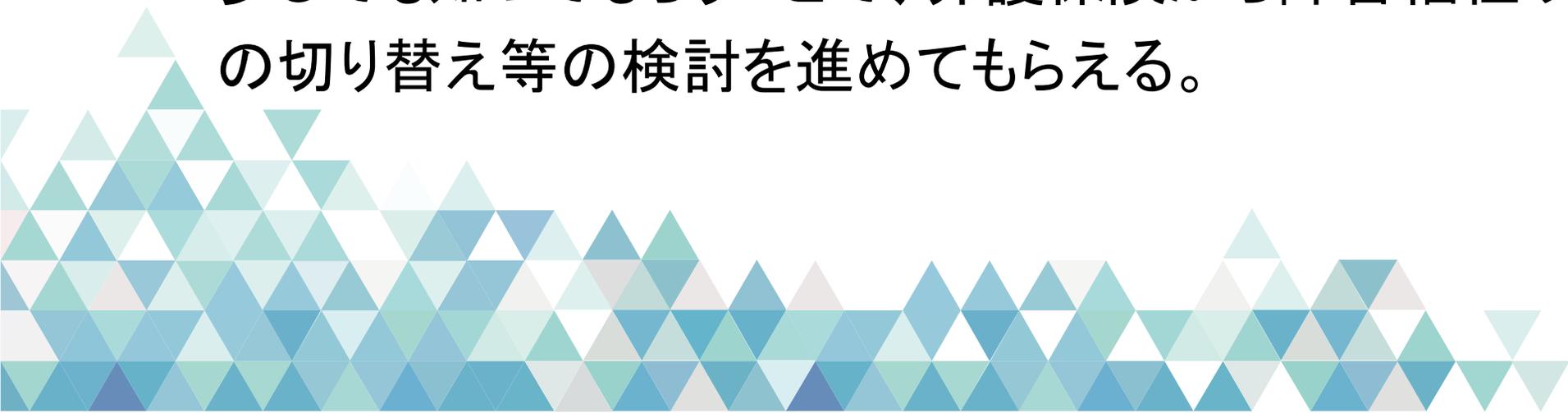


# 第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー

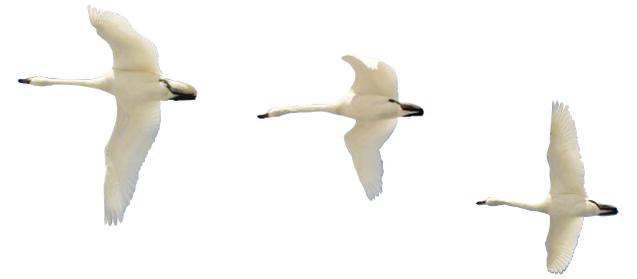


## ・介護保険第二号被保険者の方を利用に向け進めるなかで 感じること

- ①介護保険優先の原則はあるが、その方に障害福祉サービスの必要性があることを、きちんと説明できれば支給対象となる。
- ②医療相談員、介護支援専門員等に障害福祉サービスのことを少しでも知ってもらうことで、介護保険から障害福祉サービスへの切り替え等の検討を進めてもらえる。



# 第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー



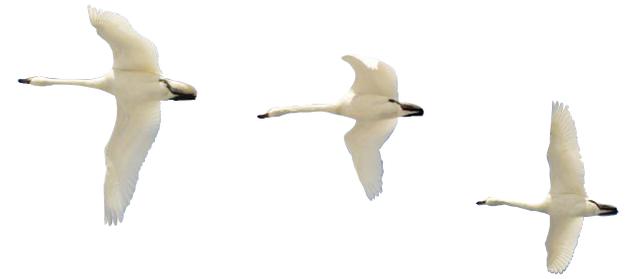
## 【講演2】介護保険施設の作業療法士より事例紹介 『介護保険領域における就労支援』

- ・64歳男性
- ・脳梗塞後遺症
- ・ADLは概ね自立
- ・失語症、注意障害、病識低下
- ・要介護1
- ・通所リハビリ利用
- ・デマンド：自動車運転の再開、就労



本人、家族、医師、ハローワーク、職業センターなどと連携を図りながら支援の方向性を定めた

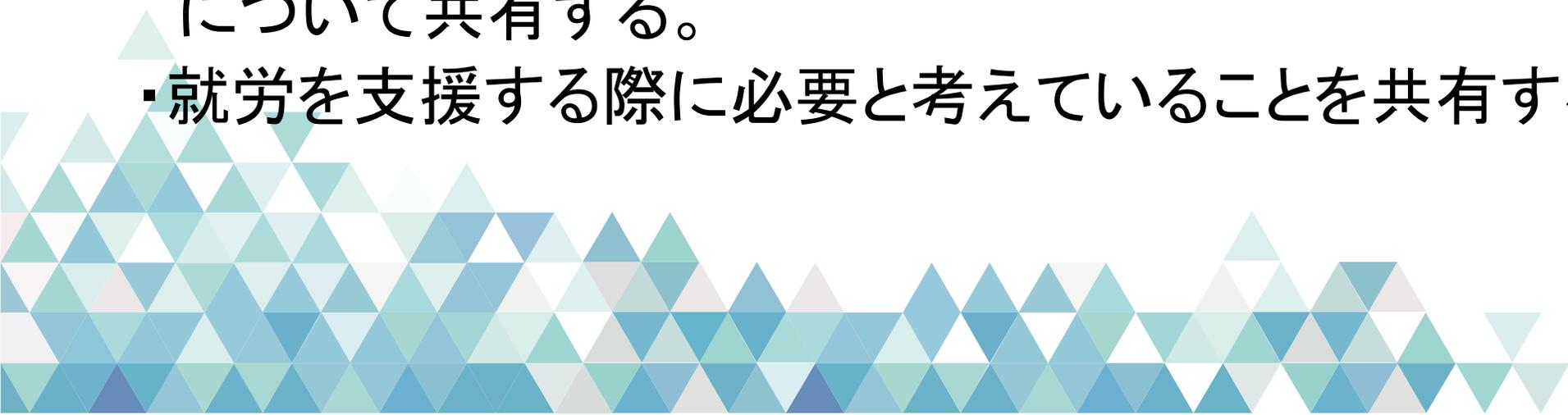
# 第4回新潟高次脳機能障害支援セミナー



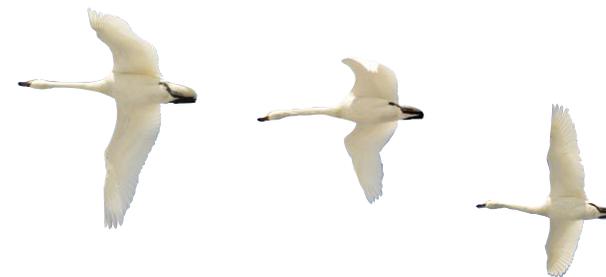
## 【グループワーク】

6人1グループで下記についてワークを実施

- 関わっている利用者の中に、介護保険サービスがあまり合っていないと感じるケースがあるか。
- 就労支援機関に相談または利用したことがあれば、そのケースについて共有する。
- 就労を支援する際に必要と考えていることを共有する。

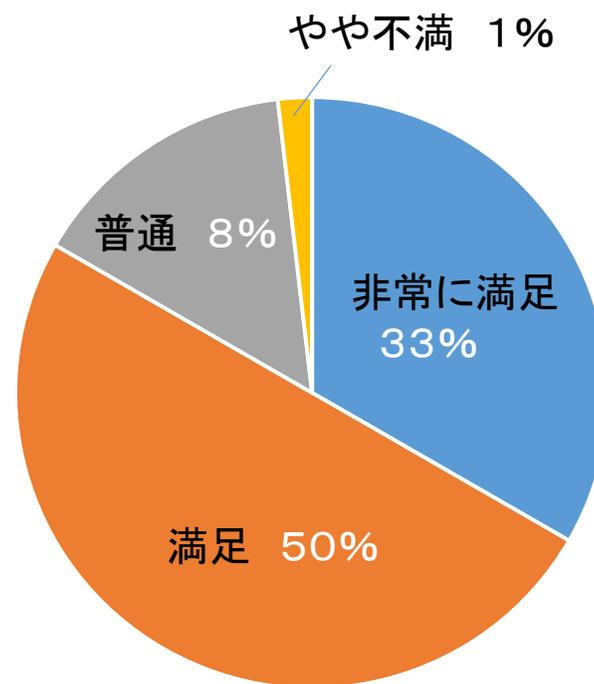


# セミナー後のアンケートより

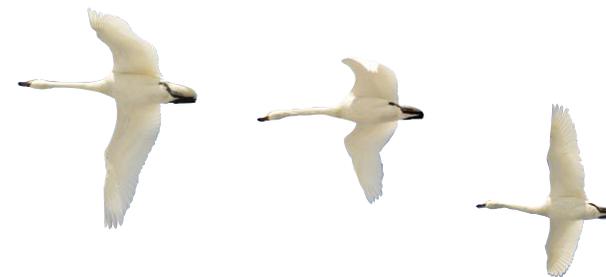


## ■ セミナーの満足度について

- ・非常に満足 18人
- ・満足 27人
- ・普通 8人
- ・やや不満 1人
- ・不満 0人

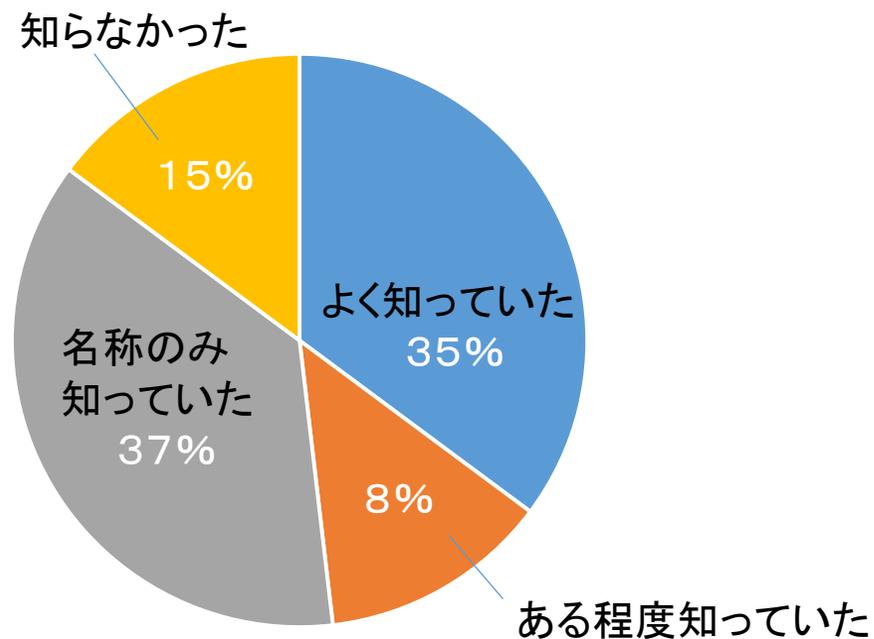


# セミナー後のアンケートより

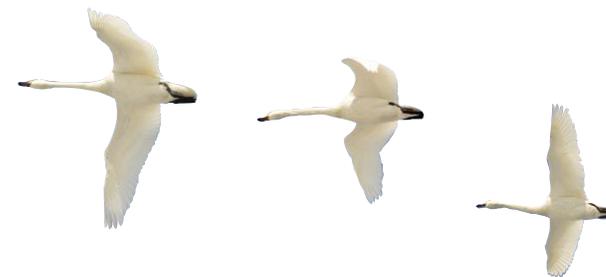


## ■ 当センターの認知度について

- よく知っていた 19人
- ある程度知っていた 7人
- 名称のみ知っていた 20人
- 知らなかった 8人

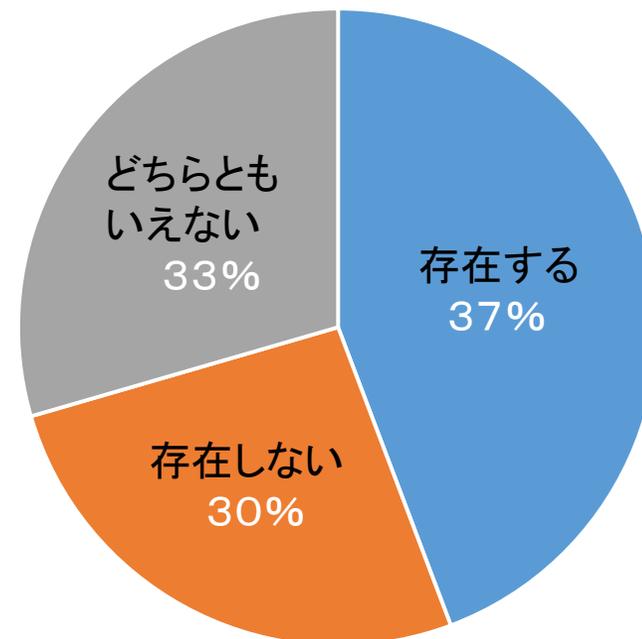


# セミナー後のアンケートより

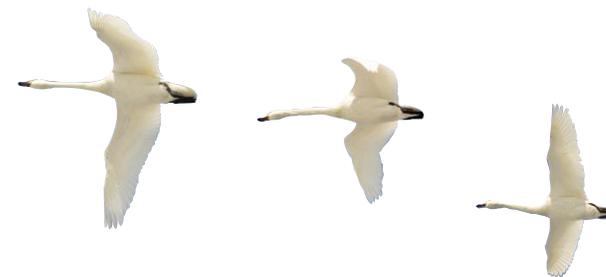


## ■利用者・患者の中に、当センターの対象となりそうな方は存在しますか？

- ・存在する 20人
- ・存在しない 16人
- ・どちらともいえない 18人



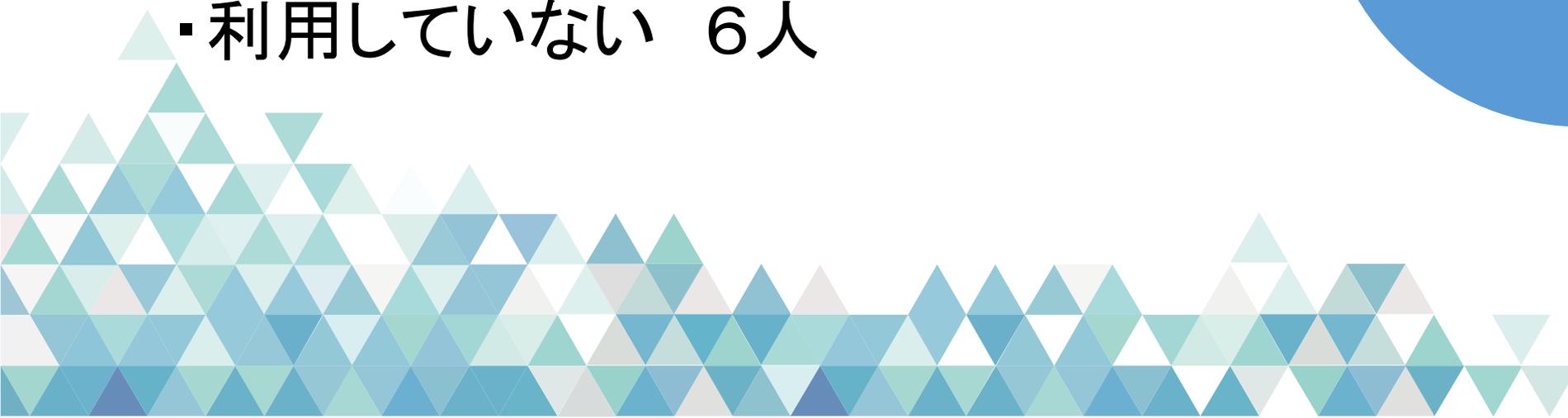
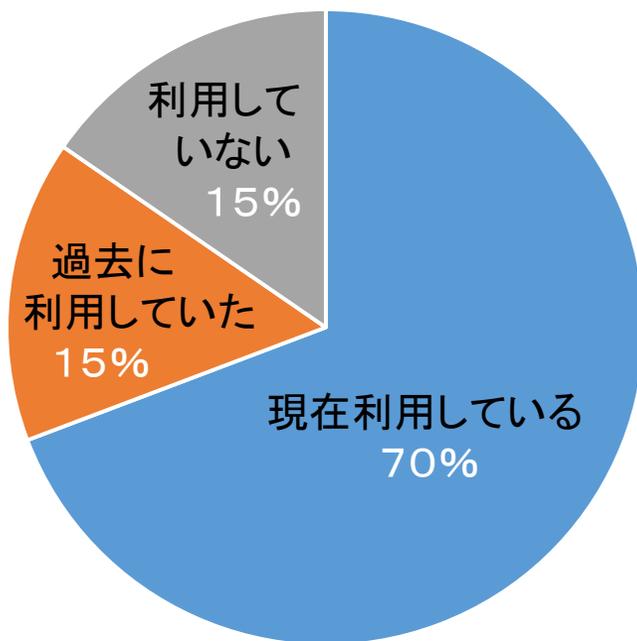
# セミナー後のアンケートより



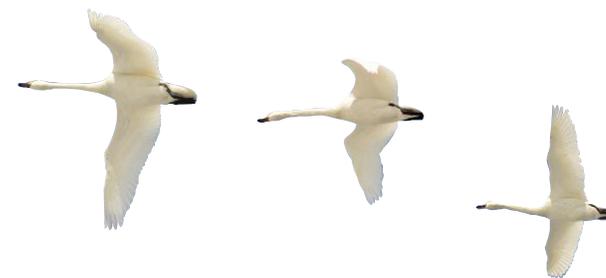
## ■所属先の事業所に、介護保険第二号被保険者の方は利用されていますか？

※介護保険領域所属の方のみに質問(対象39人)

- ・現在利用している 27人
- ・過去に利用していた 6人
- ・利用していない 6人



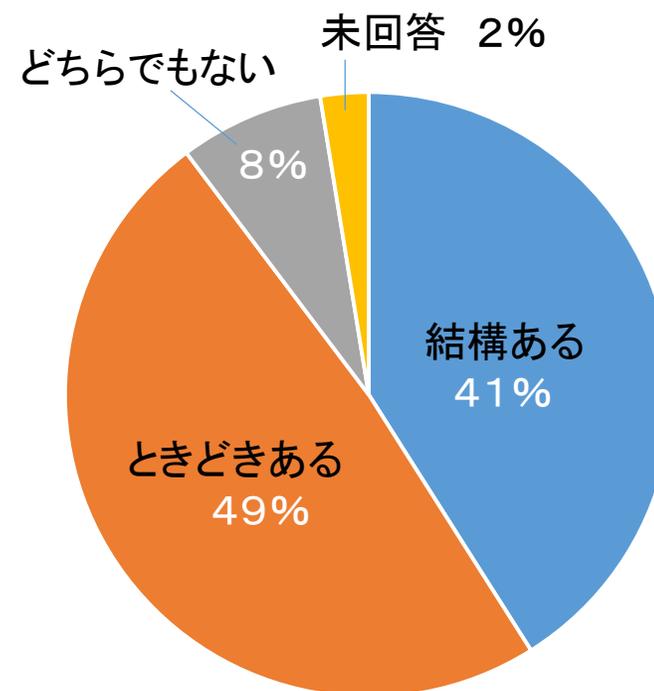
# セミナー後のアンケートより



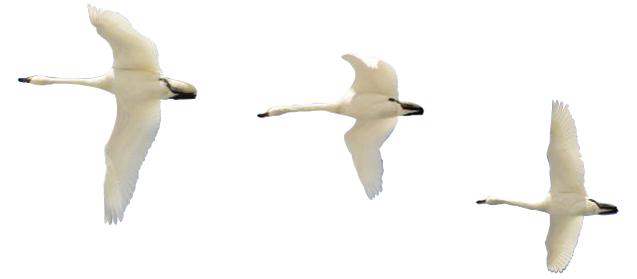
## ■介護保険のサービスが介護保険第二号被保険者の方に合わないと感じることがありますか？

※介護保険領域所属の方のみに質問(対象39人)

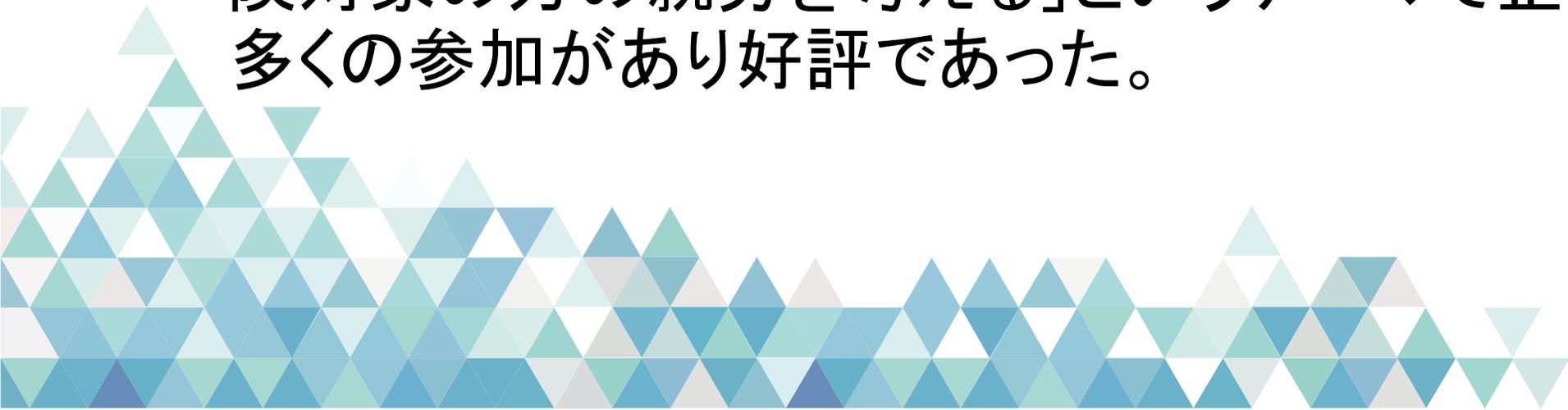
- ・結構ある 16人
- ・ときどきある 19人
- ・あまりない 0人
- ・まったくない 0人
- ・どちらでもない 3人
- ・未回答 1人



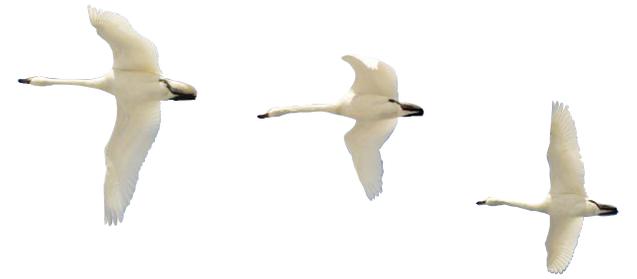
# まとめ



- ・平成29年度に利用者が減少したことを機に、広報活動の対象を介護保険領域の事業所にも拡大した結果、介護保険・第二号被保険者のなかにも、就労へのニーズがあることを把握した。
- ・第4回新潟高次脳機能障害支援セミナーを「介護保険対象の方の就労を考える」というテーマで企画し、多くの参加があり好評であった。



## まとめ



- ・セミナー後のアンケートより、既に介護保険サービスを利用している第二号被保険者の方に対し、「介護保険サービスがニーズに合っていない」と9割の方が感じていることが分かった。
- ・セミナー後、現在までに介護支援専門員より5件の問い合わせ、利用相談があり、問い合わせ件数が増加したと実感している。
- ・サービスの垣根を越え、今後も介護保険領域の方からも相談される関係性を構築したい。